

◎春日部市史年表普及版

凡 例

- この『春日部市史年表普及版』は、令和3年3月31日現在のものです。
- 年表は、次のように表記しました。

(1)年表の時代区分は、	原始古代（平安時代末まで）	旧石器時代～1179年（源頼朝挙兵以前）
	中世（鎌倉・室町時代）	1180～1590年（徳川家康関東入部以前）
	近世（江戸時代）	1591～1867年（大政奉還まで）
	近代（明治～戦前）	1868～1945年（太平洋戦争終結まで）
	現代（戦後）	1945～2021年（令和2年度まで）
- 年号は、西暦と和暦を並記しました。
- 春日部市に関わる主な出来事（事象）を表記しました。また、代表的な全国の出来事を入れました。
- 指定文化財等（国・県・市）は、青文字をクリックすると詳細な説明にリンクします。
- 赤の※印は、主な参考文献（市史、調査報告書等）の紹介にリンクします。
- 地名や寺社名は、現在の名称で表記しているものもあります。

◎この略年表は、春日部市の全体の流れを示したものです。市史について、さらに詳しく調べたい方は「市史」をご覧ください。

時代区分	西 暦	和 暦	春日部の出来事
原始古代	旧石器	約12,5万年前	春日部を含む関東平野が古東京湾と呼ばれる海に覆われる (※1)
		約3万年前	西金野井 (※2) ・内牧 (※3) ・花積 (※4) に石器を使用した人びとが暮らした
	縄文	約9000年前	内牧 (※5) で市内最古の縄文のムラがつくられる
		約6000年前	気候の温暖化により、栃木県付近まで海が入り込む。市域の低地が海となる(奥東京湾、縄文海進) 花積 (※6) ・米島 (※7) ・東中野・西金野井・西宝珠花 (※8) などで縄文のムラが多く営まれ貝塚が築かれる
	弥生	約2100年前	西親野井の神明貝塚で縄文のムラが営まれ大規模な貝塚が築かれる (※9)
	古墳	約300年頃	東中野に方形周溝墓が造られる (※11)
		約550年頃	安閑天皇の後、春日山田皇女の御名代部(春日部)が置かれ、春日部の語源となった
	飛鳥	約500～600年頃	内牧に塚内古墳群が築かれる。宝珠花台地の塚崎で集落が営まれる
		約600～700年頃	小淵などの微高地、塚崎などの台地に集落が営まれる
	奈良・平安	約700年頃	市域は隅田川を境に下総国と武蔵国に属する 宝珠花台地では、下総国分寺の瓦が使われる。(※12) また、浜川戸などの微高地に集落が営まれる
		市域の古利根川、古隅田川沿いで河畔砂丘の形成が始まる 紀姓大井氏の一族が市域に移住し春日部氏を名乗る	
中世	鎌倉	年不詳	この頃に春日部氏の館が、春日部八幡神社の近辺に築かれたといわれる
		1180 治承4年	源頼朝が下河辺行平に下河辺荘司を安堵する
		1187 文治3年	壇ノ浦の戦いに春日部兵衛尉が従軍する
		1247 宝治元年	春日部実景父子が宝治合戦で三浦氏側につき鎌倉で没する(春日部氏嫡流の滅亡)
		1283 弘安6年	この頃に浜川戸河畔砂丘上に板石塔婆が造立される
		1306 徳治元年	香取神社(西金野井)の板屋根が葺き替えられ棟札が残される
	南北朝	1330 元徳2年	下河辺荘の万福寺の農民たちが、堤用途の免除を称名寺(横浜市金沢区)に訴え出る
		1336 建武3年 延元元年	後醍醐天皇が春日部重行に春日部郷などの地頭職を安堵する
		年不詳	この頃に不動堂(西親野井)の板石塔婆が造立される
		1420 応永27年	常楽寺(赤沼)の銅造阿彌陀如来坐像が造立される (※13)
戦国	1556 弘治2年	呑龍が一ノ割で生まれる	
	1569 永祿12年	北条氏政が駿河国(静岡県)薩埵峠の戦いで戦功があった多田新十郎に感状を与える	
	1573 天正元年	岩槻城代北条氏繁が糟ヶ邊の合戦で戦功があった関根図書助に感状を与える	
	1577 天正5年	武田勝頼が不動院(小淵)の西上州年行事職を認める	
	1580 天正8年	北条氏政が不動院(小淵)の東上州年行事職を認める	
近世	江戸	1591 天正19年	徳川家康が金野井郷香取神社(西金野井)に社領10石を寄進する
		1592 天正20年	徳川家康が不動院(小淵)に修験中年行事職を安堵する
		1600 慶長5年	関ヶ原の戦い
		年不詳	この頃に岩槻城主高力清長が糟壁新宿の再興を命じる(一説に1602年)
		1611 慶長16年	伊奈忠治により粕壁宿の往還割がされ、六斎市が立てられるようになる(粕壁宿文書)
		寛永年間	伊奈忠治が江戸川の開削に着手する(1624年～1643年)
		1639 寛永16年	香取神社(西金野井)本殿の擬宝珠が寄進される
		1650 慶安3年	庄内領で新田検地が行われる。小島庄右衛門正重が帳奉行を勤める
		1657 明暦3年	江戸川の開削を伝える小流寺縁起が執筆される
		1667 寛文7年	崇蓮寺(南1丁目)の木造青面金剛像が造立される
		1668 寛文8年	庄内領を開発した小島庄右衛門正重が自ら開基した小流寺(西宝珠花)に葬られる
		1669 寛文9年	高田三郎が江戸から招かれ、谷原新田が開発される
		1689 元禄2年	松尾芭蕉が「奥の細道」の旅で粕壁宿に泊まる
		1695 元禄8年	市域に滞在して鉦彫の仏像を製作した(現存22体)円空が没する。
		年不詳	この頃に観音院仁王門(小淵)が建立されたといわれる
		1697 元禄10年	銚子口村に下間久里村(越谷市)の無双角兵衛から獅子舞が伝授される(銚子口の獅子舞) 粕壁宿などで総検地が実施される(粕壁宿検地帳)
		年不詳	この頃に延命院(立野)の木造阿彌陀如来像が修理される
1698 元禄11年	圓福寺(一ノ割)の木彫当麻曼陀羅図・木彫釈迦涅槃図が造られる		
1702 元禄15年	圓福寺の木彫閻魔王宮並びに八大地獄図が造られる		

		年不詳	この頃に愛宕神社(倉常)に酒造図絵馬が奉納される (※14)	
		1718 享保3年	赤沼村に下間久里村の無双角兵衛から獅子舞が伝授される(赤沼の獅子舞)	
		1720 享保5年	中野村(東中野)に下間久里村の無双角兵衛から獅子舞が伝授される(東中野の獅子舞)	
		1728 享保13年	丸彫庚申塔(備後)が造立される	
		1732 享保17年	黒沼(内牧)が新田開発される	
		1737 元文2年	岩槻道の古隅田川渡河点(中曾根)に石橋のやじま橋を架設される(古隅田公園に移設)	
		1771 明和8年	圓福寺の木像阿弥陀如来立像および両脇侍像が江戸本所回向院で開帳される	
		1789 寛政元年	立野天満宮本殿(立野)が再建される	
		年不詳	この頃に花蔵院(西金野井)の四脚門が建立されたといわれる	
		1793 寛政5年	天明の飢饉や水害時に救恤活動をした見川喜蔵が江戸幕府に褒賞され、苗字帯刀を許される	
		1813 文化10年	この頃に西宝珠花の河岸や家の出来事などを記す長久記の執筆がはじまる (※14)	
		1833 天保4年	浅間社(西宝珠花)に扁額が奉納される (※15)	
		1841 天保12年	旅の僧浄信が養蚕豊作の占い凧を伝えたといわれる(西宝珠花大凧揚げの起源) (※16)	
		1842 天保13年	観音院(小淵)の太子堂を修理するため、小淵村の指物職人らが近隣の職人に寄付を募る	
		1845 弘化2年	香取神社(飯沼)に算額が奉納される (※15)	
		1853 嘉永6年	粕壁宿の関根孝熙が春日部八幡神社に都鳥の碑を造立する	
		1860 万延元年	水角神社(水角)の富士塚が築造される (※17)	
近代	明治	1868 明治元年	戊辰戦争終結。	
		1871 明治4年	廃藩置県により市域は、埼玉県と印旛県になる	
		1872 明治5年	粕壁郵便取扱所・西宝珠花郵便取扱所が設置される 粕壁学校が最勝院(粕壁)に設置される	
		1873 明治6年	小学校が市内各地で創立される	
		1877 明治10年	内国通運会社が江戸川に通運丸を就航させる。西金野井と西宝珠花が寄港地となる	
		年不詳	この頃に藤塚村字六軒で農家の副業として木櫛作りがはじまる	
		1889 明治22年	町村制に伴い、現市域に町村が誕生する	
		1891 明治24年	倉松落大口逆除樋管(めがね橋:八丁目)が築造される	
		1892 明治25年	中川が流れる水角に五ヶ門樋が築造される	
		1893 明治26年	千住馬車鉄道が千住-粕壁間で開業される (※18)	
		年不詳	この頃に宝珠花の大凧揚げが、上町・下町一張りずつの大凧を揚げるようになったといわれる	
		1899 明治32年	東武鉄道が北千住-久喜間で開通し、粕壁駅が開業する 県立第四中学校(現県立春日部高校)が創立される	
		1907 明治40年	原又右衛門(大場)が尽力し、新方領耕地整理事業がはじまる	
		1910 明治43年	明治43年の水害で市域の低地部が罹災する	
		1911 明治44年	粕壁実科高等女学校(現県立春日部女子高校)が創立される	
		大正	1915 大正4年	県内唯一の公営電気事業が粕壁町で開始される
			1922 大正10年	内務省薬用植物園が粕壁に設置される
			1923 大正12年	関東大震災で市域が罹災する(9/1)
		昭和	年不詳	この頃に榎灘子神楽連は、専門の神楽師から面芝居を伝授される。
			1928 昭和3年	牛島のフジが国指定天然記念物になる
1929 昭和4年	加藤楸邨が旧制粕壁中学校(現春日部高校)へ赴任し、俳句をはじめ 北総鉄道(同年、総武鉄道に改称。現東武鉄道野田線)が大宮-粕壁間で開通する			
1930 昭和5年	総武鉄道が粕壁-清水公園間で開通する			
1934 昭和9年	木崎出身の作家三上於菟吉著「雪之丞変化」が朝日新聞で連載される			
1941 昭和16年	対英米開戦(太平洋戦争) 東京浅草の押絵職人が粕壁に疎開し、押絵羽子板の産地となる			
1944 昭和19年	粕壁町と内牧村が合併し、春日部町が誕生する(4/1) 蓮花院(大倉)ムクが県指定天然記念物になる			
1945 昭和20年	太平洋戦争が終結する			
昭和	1947 昭和22年	新学制の発足に伴い、中学校が創立される カスリーン台風によって利根川の堤防が決壊し、市域の低地部が洪水にみまわれる		
	1948 昭和23年	新制高等学校設置が認可される(現県立春日部高校、現県立春日部女子高校) 粕壁駅が春日部駅に改称される		
	1950 昭和25年	江戸川の改修工事が行われ、西宝珠花村の市街地が移転する (※19)		
	1954 昭和29年	昭和の大合併で、春日部市、庄和村が誕生する(7/1) 満蔵寺(新方袋)のお葉附きイチョウが県指定天然記念物になる 牛島のフジが国指定特別天然記念物になる		
	1955 昭和30年	やったり踊りが県指定無形民俗文化財になる 礎神社(粕壁東)のイヌグスが県指定天然記念物になる		
	1960 昭和35年	桜井村の一部(倉常・芦橋・木崎)が庄和村に編入される(11/3)		
	1964 昭和39年	東京オリンピックが開催される(10/10) 町制施行により庄和町が誕生する(4/1)		
	1966 昭和41年	武里団地の入居がはじまる 地下鉄日比谷線が北春日部駅まで乗り入れする		
	1967 昭和42年	大沼運動公園グラウンドが完成し、埼玉国体(高校と一般女子のソフトボール会場)が開催される 国道16号バイパスの一部が開通する(小淵~さいたま市宮ヶ塔)		

現代	1971	昭和46年	春日部駅西口が開設される 春日部市役所が現庁舎で業務を開始する	
	1973	昭和48年	市民体育館が開館する	
	1975	昭和50年	金野井大橋が完成する（国道16号バイパス）	
	1977	昭和52年	国道4号バイパスが開通する（越谷市～下柳）	
	1978	昭和53年	桐箆 ^{まりたんす} ・桐箱 ^{きりぼこ} ・押絵 ^{おしえ} 羽子板 ^{ごいた} が埼玉県の伝統的手工芸品に指定される	
	1979	昭和54年	西金野井の獅子舞が県指定無形民俗文化財になる	
	1980	昭和55年	春日部桐箆 ^{まりたんす} が経済産業大臣指定伝統工芸品となる	
	1982	昭和57年	市民藤まつりがはじまる 倉常 ^{くらつね} と榎 ^{かぐら} の神楽が市指定無形民俗文化財になる（※20）	
	1983	昭和58年	市民文化会館・新市立図書館が薬草園跡に開所する 市民武道館が開館する	
	1984	昭和59年	大落古利根川に古利根公園橋が開通する 庄和体育館が開館する	
	1985	昭和60年	正風館、庄和球場が完成する	
	1986	昭和61年	不動院野の神楽が市指定無形民俗文化財になる	
	1988	昭和63年	秋葉 ^{あきは} 神社（中央1丁目）の夫婦松 ^{めおとまつ} が市指定天然記念物になる	
	平成	1989	平成元年	第1回庄和大風マラソンがはじまる（5/3） 牛島野球場が完成する
	1990	平成2年	大風会館が開館する 春日部市教育センターが開所する（郷土資料館、視聴覚センター、教育相談センター）	
	1992	平成4年	春日部市消防本部・消防署新庁舎が開庁し、防災センターを設置する 庄和町役場が完成する（現庄和総合支所） 春日部共栄高校が夏の甲子園で準優勝する	
	1993	平成5年	パサディナ市（アメリカ）と友好都市協定を締結する	
	1995	平成7年	阪神淡路大震災（1/17） 地下鉄サリン事件（3/20）	
	1999	平成11年	総合福祉センター「あしすと春日部」、男女共同参画推進センター「ハーモニー春日部」、健康福祉センター「ゆっく武里」が開所する	
	2002	平成14年	総合体育館「ウイング・ハット春日部」が開館する サッカーワールドカップが日韓共催で開催される	
	2003	平成15年	学校再編により、大畑小学校・大場小学校・谷中小学校・沼端小学校が閉校し、武里西小学校・武里南小学校が開校す	
	2004	平成16年	彩の国まごころ国体が開催される。春日部は、軟式野球・卓球の会場となる 児童センター「エンゼル・ドーム」が開所する	
	2005	平成17年	春日部商工会館「アクシス春日部」が開所する 道の駅「庄和」がオープンする 春日部市と庄和町が合併し、新「春日部市」が誕生する（10/1）	
	2006	平成18年	春日部市「市章」を制定する（3/17） 首都圏外郭放水路が完成する	
	2007	平成19年	市の花「フジ」、市の木「キリ」、市の鳥「ユリカモメ」を制定する（2/21） コミュニティバス「春バス」の運行を開始する メリーボロー市（現オーストラリア・フレザークコースト市）と友好都市協定を締結する	
	2008	平成20年	「きゅう漆」保持者として市内在住の増村紀一郎氏が国無形文化財（人間国宝）に認定される 春日部市民の日を制定する（10/1）	
	2009	平成21年	子育て応援キャラクターに「クレヨンしんちゃん一家」を採用する 第二児童センター「グーかすかべ」、情報発信館「ぷらっとかすかべ」が開館する	
2010	平成22年	新春春日部市施行5周年記念式典を挙げる（10/1） かすかべ親善大使を委嘱する 庄和児童センター「スマイルしょうわ」が開所する 庄和図書館が開館する かすかべ音楽祭がはじまる		
2011	平成23年	東日本大震災（3/11）。市内の震度は5強を記録する。市内でも計画停電が実施される 東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」の開館する		
2014	平成26年	フレザークコースト市（オーストラリア）との姉妹都市協定を締結する 大風会館が東日本大震災により被災し解体される		
2015	平成27年	新春春日部市施行10周年記念式典を挙げる（10/1） 春日部市の歌「心の空」を発表する		
2016	平成28年	春日部市立医療センターが開院する 中川 ^{なかがわ} 低地 ^{てい} の河畔 ^か 砂丘 ^{さきゅう} ・浜川 ^{はまがわ} 戸 ^と 砂丘 ^{さきゅう} が県指定天然記念物になる		
2018	平成30年	子育て世代包括支援センター「ぼっぼセンター」が開設する		
2019	平成31年 （～4/30）	学校再編により、谷原中学校・中野中学校が閉校し、春日部南中学校が開校する 宝珠花小学校・富多小学校・江戸川中学校が開校し、県内初の義務教育学校「江戸川小中学校」が開校する		
令和	2019	令和元年 （5/1～）	鉄道高架都市計画事業が官報に告示される（12/17） 台風19号により、市域で避難所を66か所開設する	
2020	令和2年	新型コロナウイルスの感染が広がる		

	2020	平成32年	東京オリンピック・パラリンピックが翌年に延期される
	2021	令和3年	春日部市民憲章を制定する(1/1)